

# 2021年3月期 第1四半期 決算補足資料

1. 決算概観（連結）
2. 業績のポイント
3. 主要製品の状況
4. 業績と予想
5. 開発品一覧

2020年8月3日

キョーリン製薬ホールディングス株式会社

本資料に記載されている業績予想等は、現時点で入手可能な情報により判断した予想であり、将来の業績に影響を与える不確実な要因やリスクが含まれています。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。



# 2021年3月期 第1四半期 決算概観（連結）

(単位：百万円)

	18年3月期 第1四半期	19年3月期 第1四半期	20年3月期 第1四半期	21年3月期 第1四半期	前年 増減率
売上高	26,458	25,131	25,749	<b>24,689</b>	-4.1%
営業利益	2,595	1,320	1,575	<b>2,014</b>	+27.8%
経常利益	2,805	1,596	1,827	<b>2,265</b>	+24.0%
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	2,393	1,077	1,280	<b>1,609</b>	+25.7%

21年3月期 第2四半期予想	前年比	21年3月期 通期予想	前年比
<b>52,800</b>	+9.3%	<b>115,500</b>	+5.0%
<b>2,400</b>	+206.2%	<b>9,700</b>	+29.3%
<b>2,600</b>	+141.6%	<b>10,200</b>	+24.8%
<b>1,900</b>	+127.8%	<b>7,600</b>	+23.6%

## 21年3月期 第1四半期 連結業績（実績）

**【売上高】** 主力製品「ベオーバ」、「デザレックス」は伸長しましたが、薬価改定等による長期収載品の売り上げ減少及び新型コロナウイルス感染症拡大に伴う受診抑制、MR活動の自粛による新製品の市場浸透の遅れにより、新医薬品等(国内)の売り上げは170億10百万円と前年同期を下回る実績で推移しました。後発医薬品の売り上げは前年同期に対して増加しましたが、全体の売上高は246億89百万円(前年同期比4.1%減)と10億60百万円の減収となりました。

**【利益】** 売り上げ減少により、売上総利益は前年同期に対し2億32百万円減少しましたが、コスト削減及び新型コロナウイルス感染症拡大に伴うMR活動の自粛により、販売費及び一般管理費が前年同期に対して6億71百万円減少(内、研究開発費4億75百万円減)し、営業利益は20億14百万円(前年同期比27.8%増)と4億38百万円の増益となりました。また親会社株主に帰属する四半期純利益は16億09百万円(前年同期比25.7%増)となりました。

## 21年3月期 連結業績（予想）

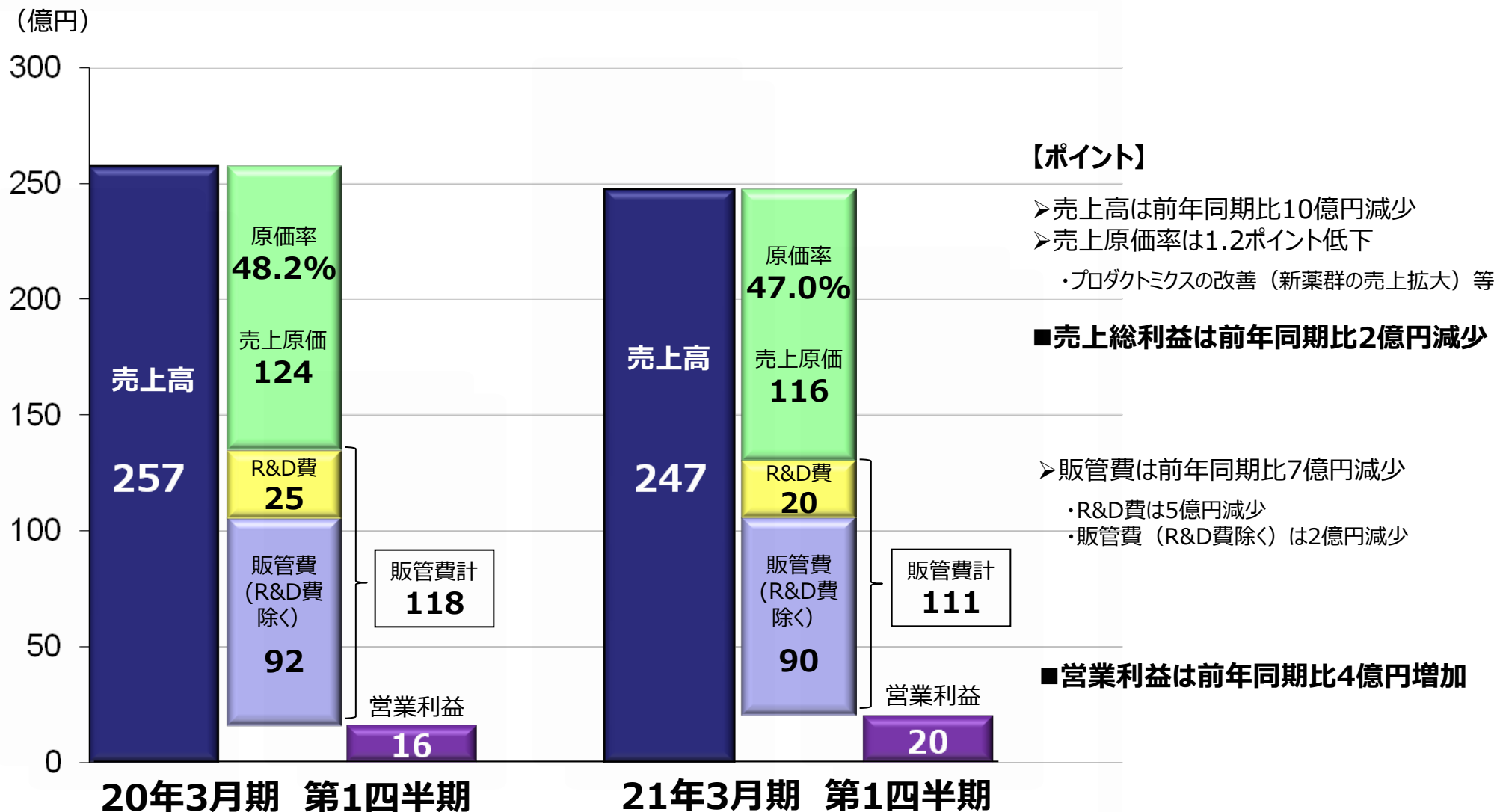
現時点におきまして、2020年5月12日に公表しました第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想を変更しておりません。

(第2四半期予想に対する進捗度 売上高：46.8% 営業利益：83.9%)

新型コロナウイルス感染症の継続または拡大による新薬の市場浸透、主力製品の普及に遅れが出ることによる業績の変動等には今後とも十分に注視してまいります。

2020年5月12日に公表しました配当予想(年間75円/株)の変更はございません。

# 2021年3月期 第1四半期 業績のポイント



# 2021年3月期 第1四半期 業績の状況

(単位：億円)

	20年3月期 第1四半期	21年3月期 第1四半期	対前年
売上高	257	247	-10
新医薬品等(国内)	181	170	-11
新医薬品(海外)	4	2	-2
後発医薬品	73	75	+2

営業利益	16	20	+4
経常利益	18	23	+5
親会社株主に帰属する 四半期純利益	13	16	+3

※2021年3月期 第1四半期連結累計期間より、報告セグメントの区分  
 (「医療用医薬品事業」「ヘルスケア事業」)を集約し、単一セグメントに変更しました。  
 これに伴い、売上高の区分を変更し、従来の「新医薬品(国内)」と「ヘルスケア事業」を  
 合わせて「新医薬品等(国内)」としております。  
 なお、「新医薬品(海外)」「後発医薬品」に変更はありません。

■売上高 **247億円** (対前年) **(-10)**

●新医薬品等(国内) **170億円** (対前年) **(-11)**

	19.6 (10)	⇒	20.6 (10)	
・フルティフォーム	35	⇒	31	( -4)
・デザレックス	0	⇒	9	( +9)
・ペオーバ	2	⇒	19	( +17)
・ラスピック	-	⇒	1	( +1)
・ペンタサ	35	⇒	32	( -3)
・ウリトス	16	⇒	12	( -4)
・ナゾネックス	17	⇒	3	( -14)
・キプレス	30	⇒	18	( -12)
・ムコダイン	15	⇒	7	( -8)

●新医薬品(海外) **2億円** (対前年) **(-2)**

●後発医薬品 **75億円** (対前年) **(+2)**

ナゾネックスAG売上増加、およびウリトスAG、6月追補品の売上寄与

■営業利益 **20億円** (対前年) **(+4)**

◆営業利益率は8.2%と前年同期比2.1ポイント上昇

●原価率：前年同期比1.2ポイント低下(48.2%⇒47.0%)

【低下要因】プロダクトミックスの改善(新薬群の売上拡大)

【上昇要因】薬価改定、後発品の売上増加

●研究開発費率：1.5ポイント減少(9.8%⇒8.3%)

\*研究開発費(25億円⇒20億円) 開発プロジェクト(後期開発品)の減少

●販管費率(除R&D費)：前年同期比0.8ポイント上昇(35.8%⇒36.6%)

\*2億円減少(92億円⇒90億円) 販売費の減少等

■親会社株主に帰属する  
四半期純利益 **16億円** (対前年) **(+3)**

# 2021年3月期 第1四半期 主要製品の状況

(単位：億円)

製品名	第2四半期		通期		
	19年9月 実績	20年9月 予想	20年3月 実績	21年3月 予想	
<b>フルティフォーム</b> (喘息治療配合剤)	67	<b>70</b>	146	<b>150</b>	
<b>デザレックス</b> (アレルギー-性疾患治療薬)	0	<b>31</b>	26	<b>88</b>	
<b>ベオーバ (自社販売分)</b> (過活動膀胱治療剤)	6	<b>35</b>	43	<b>70</b>	
<b>ラスピック錠</b> (キノロン系経口抗菌剤)	-	<b>14</b>	11	<b>41</b>	
<b>ペンタサ</b> (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	68	<b>59</b>	133	<b>117</b>	
<b>ウリトス (自社販売分)</b> (過活動膀胱治療剤)	30	<b>18</b>	58	<b>27</b>	
<b>ナゾネックス</b> (定量噴霧式アレルギー-性鼻炎治療剤)	27	<b>6</b>	60	<b>26</b>	
<b>キプレス(成人製剤)</b> (気管支喘息・アレルギー-性鼻炎治療剤)	24	<b>18</b>	53	<b>42</b>	
<b>キプレス(小児製剤)</b> (気管支喘息治療剤)	30	<b>22</b>	65	<b>53</b>	
<b>ムコダイン</b> (気道粘液調整・粘膜正常化剤)	28	<b>22</b>	58	<b>49</b>	
<b>ミルトン</b> (哺乳瓶・乳首消毒剤)	11	<b>11</b>	24	<b>22</b>	
<b>後発医薬品</b>	<b>モンデルカスト錠「KM」</b> (気管支喘息・アレルギー-性鼻炎治療剤)	54	<b>47</b>	115	<b>107</b>
	<b>モメタゾン点鼻液「杏林」</b> (定量噴霧式アレルギー-性鼻炎治療剤)	4	<b>9</b>	28	<b>35</b>
	<b>イミダフェナシン錠「杏林」</b> (過活動膀胱治療剤)	-	<b>4</b>	-	<b>10</b>

第1四半期 (4月～6月)				
19年6月 実績	20年6月 実績	前年比	中間 進捗率	通期 進捗率
35	<b>31</b>	-10.0%	44.9%	21.0%
0	<b>9</b>	—	29.3%	10.4%
2	<b>19</b>	+675.5%	53.8%	26.9%
-	<b>1</b>	—	3.1%	1.1%
35	<b>32</b>	-8.5%	54.4%	27.5%
16	<b>12</b>	-23.8%	66.4%	43.8%
17	<b>3</b>	-79.6%	49.3%	13.0%
14	<b>9</b>	-34.4%	47.7%	20.9%
16	<b>9</b>	-45.4%	38.8%	16.5%
15	<b>7</b>	-52.3%	31.9%	14.9%
5	<b>5</b>	-1.2%	46.4%	23.3%
30	<b>23</b>	-21.2%	49.6%	21.7%
-	<b>4</b>	—	45.9%	12.3%
-	<b>2</b>	—	39.4%	16.7%

# 2021年3月期 第1四半期 業績と予想 (連結)

(単位：百万円)

	第2四半期		通期		第1四半期 (4月～6月)					
	19年9月 実績	20年9月 予想	20年3月 実績	21年3月 予想	19年6月 実績	20年6月 実績	対前年 増減額	対前年 増減率	中間 進捗率	通期 進捗率
売上高	48,299	<b>52,800</b>	109,983	<b>115,500</b>	25,749	<b>24,689</b>	-1,060	-4.1%	46.8%	21.4%
新医薬品等(国内)	33,742	<b>36,800</b>	77,535	<b>79,700</b>	18,068	<b>17,010</b>	-1,057	-5.9%	46.2%	21.3%
新医薬品(海外)	390	<b>300</b>	1,490	<b>1,000</b>	376	<b>220</b>	-156	-41.5%	73.5%	22.0%
後発医薬品	14,166	<b>15,600</b>	30,957	<b>34,900</b>	7,304	<b>7,458</b>	+153	+2.1%	47.8%	21.4%
営業利益	783	<b>2,400</b>	7,503	<b>9,700</b>	1,575	<b>2,014</b>	+438	+27.8%	83.9%	20.8%
経常利益	1,076	<b>2,600</b>	8,175	<b>10,200</b>	1,827	<b>2,265</b>	+438	+24.0%	87.1%	22.2%
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益	834	<b>1,900</b>	6,149	<b>7,600</b>	1,280	<b>1,609</b>	+328	+25.7%	84.7%	21.2%

※2021年3月期 第1四半期連結累計期間より、報告セグメントの区分（「医療用医薬品事業」「ヘルスケア事業」）を集約し、単一セグメントに変更しました。  
これに伴い、売上高の区分を変更し、従来の「新医薬品(国内)」と「ヘルスケア事業」を合わせて「新医薬品等(国内)」としております。  
なお、「新医薬品(海外)」「後発医薬品」に変更はありません。

# 開発品一覧① (2020年8月3日現在)

## PhⅢ ~ 承認

※前回 (2020年5月12日) からの変更点

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
申請 (19年10月)		KRP-AM1977Y (注射剤)	キノロン系合成抗菌剤	自社	下気道感染症治療に特化して開発した新規キノロン注射剤 1. 肺に高濃度分布し、呼吸器感染症の起炎菌に強い抗菌力を示す 2. 好気性菌と嫌気性菌双方に有効、かつ1日1回投与が可能 3. 誤嚥性肺炎、肺化膿症・肺膿瘍に対しても有効性が確認された	
申請 (20年3月)		KRP-116D	間質性膀胱炎治療剤	—	医療上の必要性の高い未承認薬・適用外薬に該当する「ジメチルスルホキシド」	

・慢性咳嗽治療剤「MK-7264」販売協業に関する覚書締結 (19年5月)      メルク社 海外PhⅢ

※ KRP-108P (喘息治療配合剤「フルティフォーム®50 エアゾール」の小児適応追加) : 2020年6月に承認取得

# 開発品一覧② (2020年8月3日現在)

## POCプロジェクト (Ph I ~ Ph II)

※前回 (2020年5月12日) からの変更点

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
Ph I ※ (20年7月)	Ph I b/ II a (aTyr社:米国)	KRP-R120	間質性肺疾患 (肺サルコイドーシス)	aTyr社(米国)	融合タンパク製剤であり、Neuropilin-2受容体(NRP2)に結合することで過剰な免疫細胞の活性化を抑制する作用を有し、ファースト・イン・クラスの治療薬として肺サルコイドーシス等の炎症疾患への効果が期待される	
Ph II (18年6月)		Ad-SGE-REIC	悪性胸膜中皮腫	岡山大学	岡山大学で発見された新規がん抑制遺伝子REICを使用する遺伝子治療薬。がん細胞選択的アポトーシスと抗がん免疫の活性化を誘導することが期待される	産学共同実用化開発事業 [NexTEP]への採択(14年6月) 【米国】桃太郎源(株)が前立腺がんの臨床試験(Ph I / II)実施中 【日本】岡山大学で肝がんの医師主導臨床試験 (Ph I / I b)実施中 他

## 導出品の状況

開発段階 / 海外	製品名・ 開発コード	導出先	薬効	起源	特徴	備考
Ph I	FPR2作動薬 プログラム	米国 プリストル・マイヤーズスクイブ社	非開示	自社	FPR2作動薬。主に好中球の遊走を抑制し抗炎症作用を示す	プリストル・マイヤーズスクイブ社とライセンス契約 (15年12月)
Ph I	KRP-203	再導出を検討中	移植片対宿主病 (GvHD)		S1P受容体アゴニスト	ノバルティス社が開発戦略上の視点から開発中止を決定し、開発権を返還

※米国 Otonomy社と感音難聴を対象とする新規開発化合物についてライセンス契約締結 (2020年8月)

難聴等の耳科を対象とする全世界における開発、製造、販売に関する独占的権利を供与 (杏林製薬は、日本における販売権を留保)